

## 中国の小学校における環境教育プログラムの作成及び実践評価

北海道大学大学院 環境科学院  
環境起学専攻 人間生態システムコース  
李 仙

### 【研究の背景】

環境問題の解決には、環境負荷を軽減する生活様式への変革が不可欠である。そのためには、環境やそれを取り巻く問題に関心・知識を持ち、環境と人間とのかかわりについての理解と認識に基づき、環境保全活動に参加し、責任のある行動をとれる態度を醸成するための環境教育が必要とされている。中国の小学校では30年以上にわたって環境教育が授業の一環として行われてきた。それは近年の同国における環境の急速な悪化を軽減することに貢献したと考えられるが、環境問題の基本的な解決にはほど遠い状況である。将来の環境変化は、現在の環境教育のあり方に左右されると考えられており、児童向けの環境教育について再確認し、より効果的なものに改変するなどの対策が必要である。日本と中国では自然環境や経済水準などが異なっているため、中国と日本の児童が今まで受けている環境教育の実態、環境教育への態度と要望も異なっていると考えられる。これらの問題を解明することは、中国にとっては日本の環境教育のこれまでの経験を参考にすることに役立ち、日本にとっては途上国における環境教育の実情を把握し、今後の環境教育面での協力のあり方を考える上でも大きな意義があると考えられる。

### 【研究の目的・方法】

本研究の目的は中国の小学校における環境教育プログラムを作成・実践し、効果を評価することである。本研究ではまず、北京市及び札幌市の児童を対象にアンケート調査を行い、中国と日本の児童の環境教育に関する実態を把握した上で、日中の児童、保護者と教師のそれぞれの環境教育に対する態度と要望を把握した。そして、調査の結果を踏まえ、NPO 法人富良野自然塾でのインターン研修を通じて修得した環境教育に関する知見を生かし、日本の小学生向けの環境教育プログラムの内容を中国の小学校の実情に適したものに修正し、中国での環境教育プログラムを作成した。このプログラムを北京市内の小学校で実施し、環境問題に対する「関心」・「知識」・「行動」について、本プログラム実施前後の児童の変化の傾向を明らかにし、中国における環境教育プログラムの有効性について評価・検討した。

### 【研究の結果と考察】

日中の小学校でのアンケート調査の結果、両国共に環境教育を受けた機会として学校の授業を挙げる児童が最も多いことが明らかになった。また、日本の児童に比べて中国の児童は自然体験プログラムへの参加経験が少ない傾向が見られた。一方、環境教育を受講したいという要望は中国の児童の方が日本の児童に比べて高かった。特に自然体験プログラムについて、中国では8割の児童が参加したいと答えている。

中国で実施した環境教育プログラムを通じて、児童の環境問題への関心と知識が向上し、その解決に向けた行動をしようとする意識も上がるなどの効果が認められた。また、環境問題に対する関心が環境配慮行動を促進することが明らかになった。本研究により、中国では今後、学校の授業を通じた知識注入型教育だけでなく、関心を引き出し、行動変容を促す体験プログラムを併せて実施することで、より効果的な環境教育を展開できる可能性が示唆された。